



# シーニックバイウェイ北海道 萌える天北オロロンルート

萌える天北オロロンルートは、北海道の日本海側北部に位置する南北に続くルートです。増毛町から留萌市、小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町と続き、幌延町までの1市7町1村が縦に連なるエリアです。

このエリアは、北海道の北西部に位置しており、南北150km、東西67kmの南北に長い地域です。管内の総面積は4,020km<sup>2</sup>で、北海道の総面積の4.8%の広さです。

主な基幹ルートは、海岸線を縦走する国道231号と国道232号、主要道道稚内天塩線による「日本海オロロンライン」、加えて内陸部と連続する国道233号、国道239号などがあります。また、天売島、焼尻島を結ぶフェリー航路もあり、陸の道、海の道を持つことが特色です。

萌天<sup>もえてん</sup>に来て観て欲しいもの、それは、厳しくも美しい自然の中で営み続けてきた、この地域に住む人たちの「暮らしぶり」です。インドのマドラス、スコットランドのウィッグと並ぶ世界三大波濤<sup>はとう</sup>（大きな波）といわれる留萌の波濤、過去には10mを越えた記録もあるほど、波も風も強い地域です。真冬には、天気予報でお馴染みの「西高東低の気圧配置で日本海からの湿った雪雲」による雪が降り注ぐのもこの地域。一見すると、なんでこんな地域に住んでいるの？と思うかもしれませんが、一歩中に入ってみてください。きっと、この地域の暮らしぶりのよさと人々のたくましい笑顔が見えてくると思います。

## 漁船の一日オーナーになろう！～ひらめ<sup>そこだてあみ</sup>底建網オーナーin遠別

萌天の活動は、「景観」・「食」・「環境保全」・「レクリエーション」・「歴史・文化」の5つのルートストーリー



野呂 美紗子 (のろ みさこ)

萌える天北オロロンルートルートコーディネーター  
(一社)北海道開発技術センター主任研究員

紋別市出身。入社後、2012年より「萌える天北オロロンルート」のルートコーディネーターを担当。専門は、エゾシカなどの野生動物との交通事故(ロードキル)問題の調査・分析・対策立案等。担当になるまでほとんど知らなかった萌天内の地域資源・食の魅力、人との出会いに感謝しながら、地域のよさを少しでも発信できる人材になるべく、日々研鑽中。



ひらめ漁に向かう漁船、  
間近に見ると迫力満点



大量のひらめ

リーから成り、ルートストーリーをベースに、活動プロジェクトを展開しています。そのうちの一つ、食のプロジェクトとして、このひらめ底建網オーナー制度が出来ました。このプロジェクトは、地域で獲れる秀逸な食材をもっと知ってもらいたいとの思いからスタート。遠別町の遠別漁業協同組合、(株)遠別産業振興公社、そして留萌市の(株)「エフエムもえる」が協力して、遠別の特産であるひらめを全国に発信し、ブランド力を高めるためにオーナー制度を実施しています。出漁する船の一日オーナーとなり、漁イベント当日に揚がったひらめや雑魚を、その船のオーナーたちで山分けします。過去の漁獲高や順位を参考に、どの船長の船のオーナーを選ぶのかで運命が決まる点でも、面白い取り組みです。当日は、一部のオーナーが漁船に乗って、ひらめ漁の様子を間近に見学することができるのも魅力の一つ。漁船に乗って沖合いに行き、漁師が網を上げる姿に興奮します。全国各地からオーナーの応募があり、札幌などの道内都市でも徐々に遠別のひらめのブランドが定着しつつあります。シーニックを通じて、地元同士が繋がりが生まれ、新たな取り組みです。来年の春には、あなたもひらめ漁の一日オーナーになってみませんか？（詳しくは「ひらめオーナー」で検索<http://hirame.main.jp/2016/>）

### みちでマチを繋ぐ「オロロンまっぷ」

ルート内の魅力を集めて地域内外に発信していく、地域情報受発信プロジェクトでは、地域情報の「どこ？」をビジュアルで伝える留萌管内手書きまっぷ「オロロンまっぷ」を発行しています。観光情報の発信は、各々の市町村で個別に行うことが多く、テイストもバ

ラバラなことが多いですが、このオロロンまっぷは、それぞれの市町村の地図でありながら、留萌管内の市町村全体で統一したデザインで手がけたものとなっています。まっぷの中身も面白く、観光情報やマニアックな情報なども掲載し、見る人の心をくすぐる仕掛けがあります。まっぷの特徴の一つは、個々のまっぷがマチの中を走る道路でつながるところです。全部のまっぷを繋げると、全長3mほどにもなります。

ルート内の魅力を面白いアイデアを通して発信していきたい、そんな思いから新たに生まれたのが「萌か留た」です。花札のデザインをモチーフにルート内の地域資源を当てはめたデザインとしています。地域のお店で、お土産を購入いただいた方に無料で1枚配ることで、集めようとする方の購買意欲を高める手助けとなりました。今後に向けセットでの販売など、新たな活用を模索しています。

### 日本海オロロンラインで爽快なドライブを

景観も素晴らしい我がルート、何ととっても海沿いのドライブの爽快さは格別です。日本海と切り立った崖の間を通る国道231号も素敵ですし、巨大な風車群が見下ろす海岸線を走る国道232号も魅力的です。景観だけではなくありません。海産物が豊富なのは想像しやすいかもしれませんが（海鮮丼も旨い）、農産物も豊富なのです。増毛の果物に始まり、小平牛やかぼちゃ、苫前のメロン、遠別のお米、天塩の乳製品と、量は少ないけれど、質の高い食材が豊富なルートでもあります。ぜひ、冬の厳しさも、夏の爽快さも、そして旨い食材を味わいに、北の西海岸、萌天に足を運んでみてください。



みちでつながるオロロンまっぷ  
(<http://www.rumoiclub.net/map/>)



「萌か留た」は、コレクターの収集意欲をくすぐる出来栄え



爽快なドライブが楽しめる日本海オロロンライン